

校友会からのお話を引き受け、何にしようと思ひ、迷いました。さて、私は、鹿児島市の谷山の出身で十八歳までそこで過ごしました。良い意味でも悪い意味でも薩摩隼人です。父は大学で定収入を得、園芸と囲碁を愛する温厚な趣味人でした。母は、明治時代の良妻でした。出来の良くない末っ子が私でした。両親は欲がない人たちだったので、私も受験勉強もせず明大に入りました。十八歳になって幸福を考えるような眠った人でした。十八歳までの私は奈良県の人と同じようでした。ただ奈良県の方は受験勉強していらっしゃる点は違いますが。

そんなのきな私に人生の試練が待ち受けていました。事件に出会いました。その事件のお陰様で成長しました。現在の私があるのは、ひとえに事件のお陰様なのです。こんな人生に感謝しています。「被害者になっても幸せ」(ブログ「玲子のノート」)を参照していただければ幸いです。事件の中で明大が心の支えでした。明大に深く感謝します。その成果は、犯罪人は幸せの間違った理解、にあります。彼らほどメディアを鵜呑みにしている人はいません。

一つは、甘えが幸せであるとしている日本は、世界1位2位の甘えの構造の社会です。私も幸運にも事件に出会い事件を通して日本社会見ることができました。「事実は小説より奇なり」と申しますが、こんなに腐った社会だったとは。確かに犯人たちは悪い。でもそうなったのも日本のメディア、教育制度から生まれてきました。日本社会も、もし社会は完全に整った社会ならどうでしょう。いくら犯罪人が事件を起こしたくても、空振りに終わるでしょう。捕まるでしょう。世界1位2位の甘えの構造の社会というものがあってこそ、彼らの犯罪が生まれるのです。犯罪人もこう考えてくると刑は教育刑であるべきで、罰としての刑は、受けるのなら国家、甘えが幸せであるかのような教育をした学校教育、メディアが受けるべきだと思います。

また、夢を持って思い通りの世界、これは奴隷解放以来世界に蔓延している社会のシンボルマークです。これが犯罪者を狂わせたのです。このシンボルマークより、努力できる事に感謝する、だったら彼らは犯罪者にならなかったと思います。夢を持って思い通りの社会、その結果は現在の戦争のある世界です。思い通り思い通りでは戦いがおきます。どうでしょう、社会のシンボルマークを、努力できる事に感謝する、に変えるのは。

思うままに綴りました。最後までお付き合いくださってありがとうございました。前述した人生の中で、戦いの日々、弱くなりウツになった時もございました。その人生を支えたのは、明大の校歌でした。明大を出さしてもらったことに感謝します。校友会の皆様方にお会いするのも励みになりました。本当にありがとうございました。明治大学、それと今まで人生で出会った全ての方々に感謝できる人生を、幸運の人生だと思っております。最後になりましたが皆様のご多幸をお祈りいたします。